

岡崎 信也



県政レポート (和合の風)

No.18

2021年12月

発行責任者/富山県議会 立憲民主党・県民の会 岡崎信也

道路カメラ(100基増設)で情報提供、日中除雪、県・市町村連携除雪強化



今期も厳冬が予測されています。2021年は年明け早々に1日の降雪量としては記録的な大雪となり、高速道路や主要県道で長時間にわたる大渋滞が発生しました。除雪対応の遅れなどを知る県の除雪体制課題が浮き彫りになりました。令和3年2月議会において、私も質疑を行い、①夜間に限定されている除雪を昼間も実施する。②そのため不要不急の外出を控えるよう企業や教育機関をはじめ県民に呼びかけること、③また、交差点の除雪を強化することなどを求めました。その後県と県内市町村の連携会議が開催され、以下のとおり県道路除雪計画の内、災害級の大雪時の対応が見直されることになりました。①気象条件を契機としたタイムラインに基づく行動・県民への啓発・情報提供②積雪状況や降雪予測に基づき日中も除雪を行う「機動的除雪」、県市町村の連携による「連携除雪」や「応援除雪」、主要交差点における「除雪機の待機」③道路監視カメラを100基増設し159基の体制とし、著しい渋滞や路面状況をインターネットで配信などを行います。皆様にも大雪時には細心の注意とご協力をお願いします。

大雪やコロナ、全国では度重なる地震、洪水、土砂災害などが発生しています。これはいずれも災害です。こうした不安をできるだけ取り除き安心を持っていただける富山県であるよう引き続き活動して参ります。新たな年が皆様にとって輝かしいものであることをご祈念申し上げ冒頭のご挨拶といたします。

1

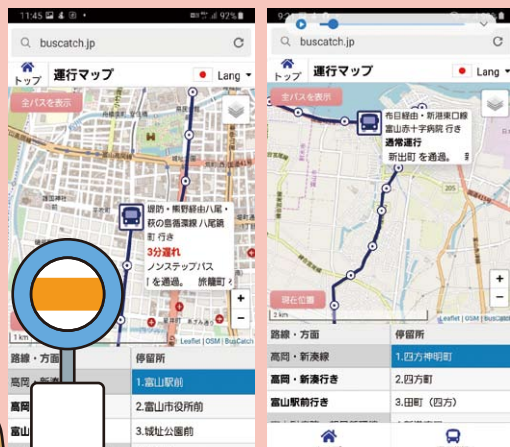
令和3年9月定例会
予算特別委員会

乗りたいバスが現在どこを走っているかわかる
「とやまロケーションシステム」リニューアル
※インターネットでとやまロケーションと検索

答
アクセス数
倍増



問 岡崎
とやまロケーションシステムのホームページがリニューアルされたが、どのような点を改善したのか問う。



▲とやまロケーションシステムスマートフォン画面



..... 助野 地方創生局長 答
とやまロケーションシステムは、県内全域のバスの経路検索や運行・遅延状況をリアルタイムで確認できるものであり、先月(8月)30日にウェブサイトのリニューアルを実施した。このリニューアルでは、利用者からこれまで頂いた意見も踏まえ

- ①遅れが出ている路線を目立つようにする、利用の多い運行マップへのリンクを設けるなど、利用者が知りたい情報に、よりスピーディにアクセスできるように画面デザインを改良した。
 - ②運行マップ画面上でも各バスの遅れ情報や通過した停留所がすぐに確認できるように画面デザイン改良を施し、より見やすく、使いやすくなるための改善を行った。
- また、今回のリニューアルを実施するにあたり、多くの方々から知ってもらうためSNSや県のホームページなどでも、広く情報発信をしてきたところである。
これにより、1日当たりの平均アクセス数の約2倍と、大変多くの方に利用いただいた実績が出てきていることから、高く評価されていると感じている。

岡崎の意見

とやまロケーションシステムのホームページのリニューアルは利用者である県民の声、そして県議会で私が度々利便性を引き上げることを求めたことが反映されて、より使いやすいシステムへと改善された。ボタン一つでサイトにアクセスできるアイコン化が実現できなかったのは残念であるが、大変使いやすいシステムになったことで、よりスピーディな情報提供が可能になった。冬季にはバスの定時性が乱れることが多く、広く県民に周知されることを求めたい。バスは鉄軌道より経路の自由度が高く無くてはならない公共交通機関であるが、定時性が乱れることが弱点である。寒い中、バスを待つ不安と苦痛が「とやまロケーションシステム」の稼働により解消され、遅れが発生しても安心して利用できる公共交通機関として認知され、乗客増により持続的な公共交通機関となることを目指す。

※とやまロケーションシステム:岡崎が強く求めて実現した、県が運営する全県のバス路線を網羅するバスの位置情報、スマホ等でとやまロケーションシステムと検索して下さい。

2

再度、「とやまロケーションシステム」と連動した、表示システム(デジタルサイネージ)の設置を求める!

答

28か所整備、引き続き市町村・事業者と協議する



問 岡崎

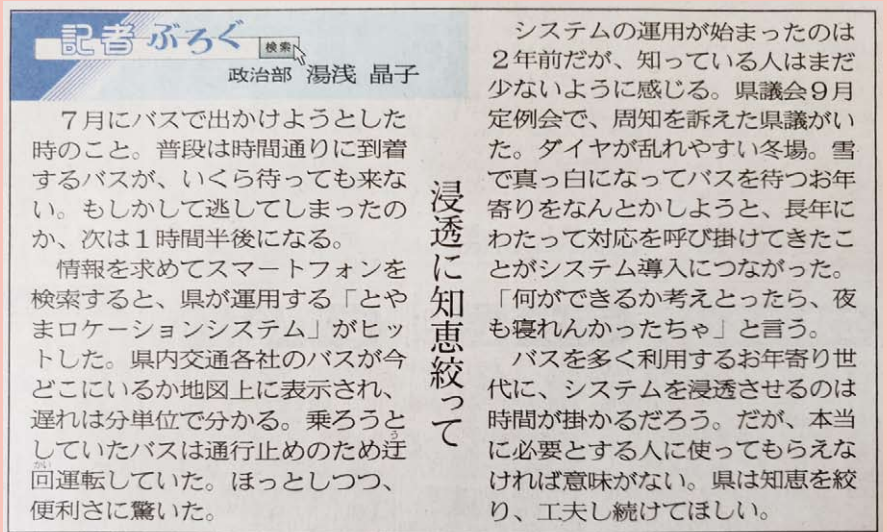
県民がバスの運行状況を把握し、誰もがとやまロケーションシステムの恩恵を受けることができるように、駅や病院などにとやまロケーションシステムと連動した、表示システムを設置すべきだ。

..... 助野 地方創生局長 答

デジタルサイネージは設置されれば、スマートフォン等の操作が不慣れな方も含めて、多くの県民にバスのリアルタイムの運行情報を提供することが可能になる。これまでも、バス事業者や市町により、富山駅前など主要な病院やスーパー前など、現在28か所で設置されている。一定の諸費用と維持管理費が必要になることから、引き続き市町村・事業者と相談しながら導入促進に取り組む。



令和3年10月2日(土) 北日本新聞記事



岡崎の意見

設置についてはおおむね把握していたが、後日、28か所の設置場所について提示を求めた。射水市のように利用者が多く、見易い場所に設置している例もあれば、富山駅前には地鉄の相談窓口14インチほどのディスプレイが設置されているだけで、バス利用者には認知されていない。これもカウントしているのだからもっと利用者の立場を考え財政支援を行うべきだ。富山駅前のデザイン性の優れたバス乗り場にバスの運行情報を設置し、富山の公共交通政策を示すべきだという私の主張には、党派を超え多くの議員から賛同の声が議場で起こった。また、10月2日(土)の北日本新聞朝刊には、記者がバス利用の際に映画ロケのためにバスが遅れ、「とやまロケーション」から運行情報を得て安堵した感想記事が掲載され、その有効性と認知について県にもっと努力すべきだとエールが贈られた。引き続き誰もが便利を実感できるように取り組みたい。

3

県の子供医療費負担を就学児童まで引き上げ市町村を支援せよ!

市町村要望に応じて支援を求める



答

その後、県が支援拡充の方針固める!

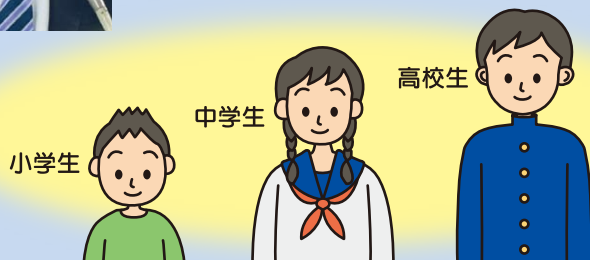


問 岡崎

市長会・町村長会から、相次いで医療費助成に対する支援をもとめる要望活動が行われた。新年度に向けて県の医療費助成度を県財政に配慮しながら拡大すべきではないか。

..... 新田 知事 答

複数の市町村から要望を受け、現在「ワンチームとやま」連携推進本部会議の分科会において、制度の在り方を検討している。県の支援については、医療費制度の基盤的な制度を維持する観点で行い、各市町村は上積みを図っている。県においては、全ての市町村において、お子さんが受診した場合において医療機関にお金を支払う必要がない現物給付化の検討をはじめているが、県支援を求める要望も多いことから引き続き制度の在り方を協議していきたい。



岡崎の意見

インフルエンザ予防接種とセット支援を求める自治体が多かったが、子育て支援の観点から敢えて子供医療費の無料化に焦点を当てた。全国的に子どもの医療費助成が進む中、子育て支援制度の大きな柱として、富山県の自治体すべてが高校生まで無料となるよう県が積極的に支援すべきであり、これは、人口増の移住を進める上でも重要な施策である。徐々に引き上げ市町村支援を高めるべきである。

4

新型コロナウイルス感染対策、重症化を防ぐ抗体カクテル療法を進めよ!



答 重症化防止に効果を期待! 入院受入22医療機関の内、19医療機関で実施。原則入院のみに措置する。



問 岡崎

新型コロナウイルス感染症は下火になりつつあるが、8月のお盆を境にした爆発的な感染は、デルタ株によるものと推測される。これにより一時自宅療養者が870人まで増加し、全国的に急変が起こり医療機関の受け入れ先がないことから、生命が危険にさらされる事態が発生している。医療の逼迫対策として重症化させない、抗体カクテル療法が始まっているが県の見解と今後の対策について問う。

..... **木内 厚生部長** **答**

抗体カクテル療法は、酸素吸入が不要な方、軽症の方でなおかつ高齢や糖尿病等の重症化リスクを有する方が対象とされており、発症から時間の経っていない比較的軽度の症例ではウイルス量の減少やひいては重症化を抑制する効果が示されている。抗体カクテルについては、投与中から副作用が出ないよう患者をモニターするとともに、投与完了後少なくとも1時間は観察すること、またアナフィラキシーなどの重篤な過敏症が投与中から24時間後にかけて起こることがあるとされていることから、現在県においては入院の上で治療を受けていただいている。県内22の入院受入医療機関の内19で投与実績がある。今後とも抗体カクテル療法の対象となる方は、入院の上で治療を受けていただくことを原則とし、医療負担を減らすよう体制を組みたい。



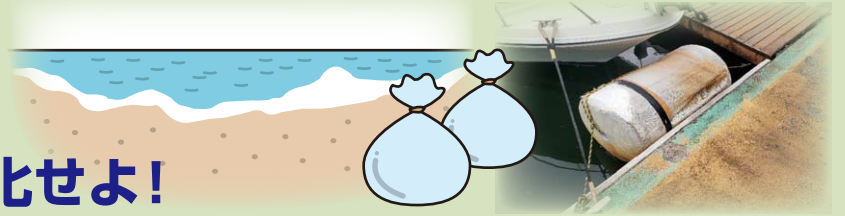
質疑は9月24日(金) 18:15
KNBnews・everyで報道

岡崎の意見

新型株オミクロンが世界で広がりつつある。3回目接種を急ぐとともに、重症化を防ぎ医療のひっ迫を防ぐ対応に県は全力を挙げている。ワクチン検査パッケージによる経済との両立が始まっているが、基本はマスク、三密を避ける誰もがができる対策である。引き続き注視が必要と考える。

5

海岸塵芥処理について



① マイクロプラスチック対策を強化せよ!

答 発泡スチロールフロートの使用状況の実態把握、係留施設の管理者の使用者に対して、働きかけを行う



問 岡崎

プレジャーボート等が岸壁で使用しているフロートが紫外線で劣化し、マイクロプラスチック化や劣化した状態で湾岸に漂着しているとの指摘があるが、県として対策が必要ではないか。

..... **出来田 生活環境文化部長** **答**

平成29年に実施した調査において、対象とした県内10海岸全てにおいて生活雑貨や容器等の原料でもあるポリエチレンや、ポリプロピレンなどのマイクロプラスチックが確認されたところである。議員ご指摘のプレジャーボート等との因果関係は特定できないものの、現場確認を行った際に、発生源となる可能性もあると考えられることを確認した。県では今後、関係部局の連携による係留施設での発泡スチロールフロートの使用状況の実態把握を努め、必要に応じて係留施設の管理者を通じてプレジャーボート等の使用者に対して、フロートの適切な管理、別素材のものへの交換など、フロートの流出防止が図られるよう働きかける。



② 海岸清掃ボランティア制度を周知せよ!

答 「海岸漂着ポータルサイト」に支援情報を集約する。



問 岡崎

海岸の清掃美化にはボランティアの協力が欠かせない。ボランティア団体への支援制度について、より丁寧に情報発信すべきだ。

..... **出来田 生活環境文化部長** **答**

県においては、人力で回収できる漂着物については市町村及び地域住民・民間団体としている(海岸漂着物対策推進地域計画)。この様な中で議員ご指摘のボランティアの協力は欠かせないと考えており、これまでも支援してきている。一方で支援制度が集約されておらず、分かりにくいため、今後「海岸漂着ポータルサイト」に支援制度の情報を集約するほか、ボランティア団体の交流の場として運営されている「エコノワとやま」を活用して、支援制度の周知を図る。



岡崎の意見

12月7日には岩瀬浜において高校生が主体となり、スポーツイベントの要素を取り入れた清掃活動が展開され注目を浴びた。若い世代の環境への関心が高まり、主体的な清掃活動が推進されることを望みたい。労力のいることは大勢で行い、参加者の負担を軽減することが継続への流れをつくる。この視点を県に求めたい。

県営利賀川ダム管理事務所の 現職死亡について問う



答

AED(自動体外除細動器)の適正配備に努める



問 岡崎

令和3年4月に利賀川ダムに勤務する県職員が心筋梗塞で倒れた際に、1時間後の搬送になり死亡した。勤務地は山深く除雪も行われておらず、唯一ヘリによる搬送方法しかなかった。また、AEDも配備されておらず特殊な勤務地であり配慮が必要ではなかったのか。見解を聞く。



県営利賀川ダム管理所



..... 木内 厚生部長 答

利賀川ダム管理事務所は、ヘリポートの耐荷重や周辺環境などからドクターヘリのランデブーポイントの条件を満たしておらず、出勤を見合わせた。



..... 江幡 土木部長 答

管理事務所のヘリポートは、ドクターヘリの基準(1m不足)を満たさない。また、荷重は職員や荷物の行き来に使用する民間ヘリの1.5倍あることから、ドクターヘリの着陸基準を満たさない。建屋も昭和49年(1974年)の竣工であり強度を上げる改良も困難である。



..... 利川 危機管理官局長 答

今回のような事件においては、消防防災ヘリ「とやま」の活用方法が確立されていたが、基本的に防災を主とした運用であり、消防防災ヘリ「とやま」は事件当時別の任務についており、連絡を受け急ぎ航空センターに戻り燃料を給油後現場に急行した。そのため1時間弱を要したが、対応に不備はなかったと認識している。



..... 岡本 経営管理部長 答

AEDは県民利用の多い施設や社会福祉施設など71施設91台配置している。配備については一般財団法人日本救急医療財団が公表している「AEDの配備に関するガイドライン」を参考に指針を制定している。利賀川ダム管理所は県民が利用する公の施設には該当しないことから配備対象ではない。しかし、今回の事例を踏まえ周辺の状況も踏まえて、AEDの配備の必要性について点検するなど適正配備に努める。



岡崎は常に
現場重視

現場となった県営利賀川ダム管理所は、国道156号線より、砺波市庄川地内から利賀村に向かう国道471号線に入り、旧利賀村役場前を経由し、さらに川沿いに遡り、距離は砺波市役所から約50kmと極めて山深い場所にある。現在は道路が険しく危険箇所が多いことから、2箇所的大型のゲートで一般車両の通行を禁止しており、まず砺波土木センターで通行申請を行い、ゲート鍵を受け取る必要がある。また、携帯電話が通じず、分岐点で道に迷ったため、通信可能な冬期ダム管理所(雪深いため冬期は下流にある管理所で勤務する)のある千束地区まで引き返すなどして現場と連絡を取りながらの道中であった。職員の皆さんから当時の状況をお聞きし、キャンプ場も近くにあることや民間の土木作業員の事故などの際に緊急通信手段もないことなども指摘された。今回の質疑ではAEDが配備されていないことが明らかになり、県の指針の見直しが必要であると感じた。公の施設に加えて緊急搬送ができない箇所にはAEDの設置が必要ではないだろうか。引き続き県民の生命を守る立場で質疑していきたい。



岡崎信也 事務所

(自宅) 富山市布目548番4

TEL 076-435-6211

E-mail hs-oka@pf.ctt.ne.jp

ホームページ

<http://www.s-okazaki.jp>

